



ようこうだより 5月

令和2年5月1日



心をひとつにして

園長 山崎 恵美

早春を告げた桃の花やようこう桜とバトンタッチして、園庭に白くて可愛らしいシロツメクサが自分の出番を待っていたかのように咲き広がっています。

子どもたちが胸はずませ進級・入園した4月。ようやく新しい環境にも慣れ始めた頃、新型コロナウイルス感染拡大防止のため登園自粛のお願いをすることとなりました。日ごとに登園する子どもも少なくなり、「〇〇ちゃん、おやすみだね」と友だちのことを気にかけたり、「あしたから、ずーっと、おやすみするんよ」とお家で過ごすことを理解し教えてくれる姿もありました。送迎時には、保護者の方にも会話やコミュニケーションを最小限とし滞在時間の短縮をさせていただいており、賑やかだった頃を思い出し寂しく感じています。毎日、新型コロナウイルスのニュースで溢れ、大人が顔をつき合わせれば、その会話ばかり…今起きているこの状況が子どもたちの目には、どのように映っているのでしょうか？

私たち人間が心配や不安にかられ、寂しさで心が沈みかけている傍で、大自然はそんなことは気にせず、着実にすてきな春がきたことを知らせてくれています。「みて、みて！」と声を弾ませる子どもたちの目線の先には、アリやテントウムシ、ちょうちょ、毛虫、ダンゴムシ…それぞれ懸命に動き回っています。そして子どもたちは、自ら瞬時に興味あるものやワクワクする遊びを発見し、触って、匂いを嗅ぎ、耳を澄まし、考えながら満足いくまで何度もいつまでも遊び込んでいます。自分の気持ちに正直で純粋で、自由でものすごいエネルギーを持つ子どもたちのすばらしい感性！まさに遊びの天才！！

登園自粛の協力をしてくださり、家で子どもたちと過ごす保護者の方は“毎日何をして過ごそうかしら？”と考えていらっしゃることでしょう。外出がままならず身体を動かす時間が減り、生活リズムも崩れ気味かもしれません。そんな時は朝一番、太陽の光を浴び、いい香りのする春風を吸い込んでみましょう。朝ごはんの後は是非、ドアを開けて家の周りやベランダ、庭、人が混雑しない場所を見つけて戸外へ飛び出してみてもいいですね。公園でなくても特別なおもちゃが無くても、子どもたちは自然の中に一歩出れば足元の葉っぱを拾って見比べたり、石ころを並べたり、小枝でトントン音をたててみたり…何かしら夢中になって遊び始めるでしょう。一緒に過ごす大人も童心にかえって、どろだんごづくりやどろんこ遊びをするのも楽しそうです。様々な形に変化する水や土、砂などに触れることでストレスも緩和し気分がリフレッシュするとも言われています。いつも元気いっぱい！ユーモアいっぱい！子どもたちのあの無限なパワーは、自然の中で身も心も解放して遊ぶことで生まれているのかもしれない。きっと大人の想像を超える発見や体験を重ねながら、うんとたくましく生きているのだと思います。

例年この季節になると、子どもたちが園庭のクローバーやシロツメクサを摘んでは手渡してくれます。その花言葉には『幸福』『約束』とあります。新型コロナウイルス対策で人との距離をとらねばならない今だからこそ、心は強く温かく繋がってほしいと願っています。子どもたちも大人も、家庭や保育園、職場、地域…みんなが『幸福』であるように、また一日も早く子どもたちが揃って笑顔で過ごせる日がやってくることに思いをはせながら元気に過ごしていきましょう。

5月6月の行事

予定していた行事は、新型コロナウイルス「緊急事態宣言」が出されているため、すべて中止・延期とさせていただきます。春の遠足については、公園などの人が集まる場所を避け園周辺の散歩に変更いたします。乳児組（0～2歳児）・幼児組（3～5歳児）から後日手紙を配布いたします。